

2014年12月23日～31日まで、東ティモールのスタディツアーを行いました。今回は2度目の参加となる産婦人科医の佐藤いずみさん、山形の病院で助産師をしている沼澤彩子さん、大学生の山田優香さんと木村仁美さんの4名が参加。現地で活動する青年海外協力隊員の方との交流会やファトボル村への移動診療、孤児院 HOPE での子どもたちとの交流などを通して、現地の人たちの暮らしや文化を学び、自分たちのこれからの生き方を考える機会になりました。



- 【スケジュール】
- 1日目：日本を出発、バリ島にて宿泊
 - 2日目：午前中、東ティモールに到着
パイロピテ診療所見学、タイスマーケットで文化に触れる
Frontline の活動紹介、手洗いの歌の練習
 - 3日目：ディリ市内観光（キリスト像など）
海辺のマーケットで南国フルーツを購入
 - 4日目：孤児院 HOPE 訪問、一緒にごはん作り
フロントライン グレノ事務所訪問
SHARE（シェア）の活動のお話を聞く
 - 5日目：パイロピテ診療所でダン先生の回診に同行
青年海外協力隊のみなさんと交流会
 - 6日目：東部バウカウへショートトリップ
戦時中の日本軍の拠点を見る
 - 7日目：ファトボル村へ移動診療、村のごはんをいただく
 - 8日目：ディリのマーケットでおみやげ購入
お昼、日本への帰路につく

スタディツアーに参加した4名の方の感想を紹介します。

☀ 東ティモールで、見て触れて感じたこと

沼澤 彩子

ファトボル村への移動診療。アクセスの悪い地域とそこに暮らす人々。世界にはこういう現状があることは知っていたけれど…。実際に自分が行くまでは、どこかメディアの中

の世界のような気がしていました。でも、その世界は現実にあります。

最終月経も妊娠週数もわからずやってくる妊婦さんを前に、限られた道具と自分の五感をフル活用して健診をしていく陽さんと現地の助産師さん。私も一緒に妊婦健診をさせてもらいながら、日本とは何もかも環境は違うけれど、お腹に赤ちゃんを宿している妊婦さんが目の前にいれば、どんな環境であれこの人たちの命を守る使命が助産師にはある、そう感じさせられた体験でした。一方、妊婦さん達がエコーで赤ちゃんの性別がわかると嬉しそうにしていたり、初産婦さんがどこかドキドキした様子で健診を受けている様子を見ると、日本でも東ティモールでも、まだ見ぬお腹の赤ちゃんに思いを寄せている母の姿は愛だなあとしみじみ感じました。

そして、パイロピテ診療所にて。ここで出会ったのが生後3ヶ月の赤ちゃんとお母さんでした。赤ちゃんはひどく小さく痩せていて、衰弱している様子はすぐにわかりました。この赤ちゃんは双子で、一人は生後まもなく亡くなったと聞きました。お母さんは、泣く元気もない赤ちゃんをすごく心配そうにあやしています。「このお母さん、一体どんな思い出この赤ちゃんを3ヶ月育ててきたんだろう…」胸がしめつけられました。子を思う気持ちは日本も途上国も同じ。当たり前なことだけど、そう痛感した体験でした。



ファトボル村の子どもたち

「地球のステージ」で、紛争後の東ティモールの映像を初めて見たあの日、「なぜ笑顔でいられるの？その強さはどこからくるの？」その答えを知りたいって思いました。今思うことは、日本人も東ティモール人も、大切な人を失う悲しさや、大切な人が病気になる辛さは同じということ。でも私が出会った東ティモールの人々は、家族や友達と過ごす当たり前の生活を愛していて、足りないものより今あるものを大切にしているからこそ、あんなに生きる姿が輝いて

いるんじゃないかと教えてもらった気がします。

今夏より青年海外協力隊としての活動が始まります。任国で私が役に立てることはないかもしれない。それでも私は、東ティモールで出会ったような、わが子を思うお母さん達や家族、無邪気な子ども達、いろんな事情を抱えながらも懸命に生きる人達に、一人でも笑顔になってもらいたい、心に寄り添いたい、そんな思いを胸に助産師をしていきたい、そう決意できた7日間でした。



ファトボル村にて「手洗いの歌」を指導
たくさんの住民の方が学んでいました
左から木村さん、山田さん、沼澤さん、佐藤さん

✧ 世界を知る旅

木村 仁美

今回東ティモールに行き、日本で生活をしていたら経験できないような事を体験しました。

バイロピテ診療所ではドクターやスタッフの方が限られた設備の中で、できる限りのことをやり、患者さんと向き合っていました。ファトボル村の山の中の診療では、診察をしている場所に何時間もかけて患者さんが来ているということを知りました。診療所やドクターがいない生活はどれほど不便で不安なことなのか知りました。妊産婦健診を見せていただいた際、赤ちゃんは元気だということを知った時の母親の安心した顔、薬を渡し説明した時の笑顔。どんな状況でも子どもを守りたい気持ちは世界共通だと感じました。「手洗いの歌」を歌った際、子どもが練習しているのが聞こえてきたときはとっても嬉しかったです。医療系のことのできない私でも役に立てることがあるのだと感じました。ドクターが診察をしている間、子どもたちと遊ぶ時間がありました。東ティモールの子ども達は明るく純粹でずっと笑顔です。風船で動物を一緒に作成し完成したときのニコニコした笑顔とキラキラした目は忘れられません。



風船を手渡す

青年海外協力隊の皆さんとの交流では、さまざまな方面で活躍されている方のお話を聞くことができました。そして国際協力にかける熱い思い、情熱を知りました。ネットや本で調べただけでは発見できない事、実際に国際協力の現場で活躍されているからこそ語れる事、活動してきたからわかった事など「国際協力」の魅力改めて知ることができました。国際協力といってもたくさんの種類、分野がありました。世界で求められているのは医療関係者や学校教育者だとばかり思っていた私には大きな発見でした。日系の方を対象とした仕事や音楽関係など多岐にわたっていました。知れば知るほど奥が深い仕事だと思いました。

日本での当たり前が当たり前じゃない。遠い国で起きていることを自分の事として考えられるようになりました。そして今まで興味のなかった部分に興味湧き、それに向けて今から努力をして、1つでも多くやりたいことを実行できればと思えるスタディーツアーになりました。



グレノの市場で野菜を購入
このあと HOPE で一緒にごはんを作りました

今回のスタディツアーは名前通り、勉強の毎日でした。出発する前は現地の子どもたちや教育について学ぶつもりでしたが、行って見てそれ以外のこともたくさん学ぶことになりました。

まず、陽さんや青年海外協力隊の皆さんから聞いた話は全て新鮮で衝撃的でした。私はモラルや人の気持ちというのは、例外はあっても世界中そこまで変わらないものと思い込んでいました。その思い込みは陽さんのインドネシアでの体験を聞いて変わりました。日本の外には、人の痛みがわからない人がいる、人の苦しみを理解できるように教育しない国がある。教育は人々の考え方の基底を作るものなのに、そこに必要なモラルが日本とは違う。その大変さは、青年海外協力隊の皆さんとのお話の中でもうかがえました。障がいを持った子どもを恥ずかしいと思って隠す親や、視聴者のことを考えない番組制作者など…考え方の違う人たちを教育していくことは本当に大変なことだと思いました。



ダン先生の話に耳を傾ける

また、当初の目的であった現地の子どもたちとの触れ合いも果たすことができ、良い体験となりました。最初に出会ったのは、孤児院HOPEの子どもたちでした。私たちが訪れたときは、小さい子から私と同年くらいの子までの年齢層の子どもたちがいました。



薬袋の作り方を習う

年齢の低い子どもたちは風船を見せるとすぐに笑顔で寄ってきてくれて、楽しそうに遊んでくれました。細くて背も大きくないのにどこからそんな体力が、と思うほど元気な子たちでした。次に出会ったのはファトボル村の子どもたちで、その子たちはHOPEの子たちよりもずっとシャイでした。また、やはり風船にはみんな反応してくれました。言葉はまったく通じない、名前もうまく伝わらないにも関わらず、あんな無邪気に遊んでくれるものかと感心してしまいました。

日本にいるのはとても心地が良いです。しかしとても小さく、閉塞感すら時たま感じます。海外は何から何までわからないことだらけです。しかし開放感と、目からうろこの経験に溢れています。まずは自分の生まれた国をしっかりと勉強し、それから外の世界に出てみるのも、豊かな人生の送り方だと思っています。

※ 東ティモールスタディツアーに参加して

佐藤 いずみ

昨年に続き2度目のスタディツアーに参加させていただきました。

昨年の初めての東ティモールは、見るもの聞くもの触れるもの全てが新鮮で、自分のこれまでの世界や考え方が変わるようなとても大きな体験でした。桑山先生の活動も、アメリカ人医師のダン先生も、ティモール人医師のアイダも、東ティモールの人達、特に子どもたち、青年海外協力隊の方々、それから美しい東ティモールの海と空と山と…。



南国のマーケット
色とりどりの果物、野菜が並ぶ

そんな体験が忘れられず、今年もまたスタディツアーに参加させていただきました。

東ティモールには青年海外協力隊の方々をはじめ、様々な団体の方が活動をされています。自分と同じ年代の日本人がこんなに多く「日本とティモールのために」と悩みながらも一生懸命働いておられる姿にふれることができ感銘を受けました。自分ももっと「誰かのため」に仕事をしたいと思いました。



五感を生かして診察を行う

また今回は現地スタッフの菊地陽さんがツアー全体を通してガイドをしてくださいました。陽さんは日本と比べたら不便も多いと思われる現地の生活を明るくたくましく楽しんでおられ、現地のスタッフさんたちと家族みたいに和気藹々とされながらも、プロとして自分の信念を貫いて仕事をしておられます。その姿にふれて「自分にとってプロとしての信念てなんだろう」と深く考えさせられました。

たくさんの人に出会うことができ、感謝いっぱい日本で帰ってくるのがとても嬉しいです。青空と笑顔がいっぱいのティモールにまた行きたいなと思います。それまでは誰かの役に立てるように勉強やスキル向上に頑張っていこうと思います。